

教育委員会だより

「自主」と「共生」～自己肯定感

平成 31(2019)年 4 月 24 日号 多治見市教育委員会 教育総務課

ようこそ多治見市へ ～転入教職員受入れ式～

4 月 1 日 (月) とうしん学びの丘エールを会場にお借りし、「平成 31 年度転入教職員受入れ式及び辞令交付式」を行いました。

今回の人事異動で、多治見市内の小中学校に、新たに 63 名の教職員を迎えました。

<転入>	
校長	12 名
教頭	7 名
教諭	27 名
養護教諭	1 名
事務職員	4 名
<新規採用>	
教諭	12 名
合計	63 名



転入職員を代表して、教育長より辞令を受けた、共栄小学校の宮地校長は「新規採用者も転入者も、各自がこれまでの経験や今までの任地で培った力を多治見の子どもたちのために精一杯発揮する」と笑顔で力強く決意を表明しました。

平成 31 年度は、市内 21 の小中学校 8,118 名 (13 小学校 5,469 名 8 中学校 2,649 名) の児童生徒の自立に向けた育ちを、今回の 63 名を加えた、およそ 800 名の (非常勤職員まで全て含む) 全教職員で支えます。ご理解とご協力をお願いします。(児童生徒数及び教職員数は 4 月 3 日現在)

日本語等個別指導の取組



4 月 3 日 (水) から 3 日間、多治見市駅北庁舎で、本年度、中国から市内中学校へ転入する生徒に対する日本語等の個別支援を行いました。相談員の天野さんと中国語の指導員の方が、日本語の基礎、学校生活のルールやマナーについて、丁寧に教えてくださいました。はじめは緊張気味だった彼も次第に笑顔が増え、「理解が早い。半年もすれば不自由なく過ごせると思う」と指導員が認めるほど熱心に学びました。

現在、多治見市では、支援を要する 16 名の児童生徒が日本語等の個別指導を受けています。その子達が多治見市の学校で安心して学ぶことができるように、多治見市の学校で学ぶ全ての子どもたちが、日常生活を通して多様性や寛容を学ぶことができるように。この取組にも多治見市のインクルーシブ教育の考え方が、底にしっかり流れていると捉えています。

さわらび学級開級式

4 月 15 日(月)、さわらび学級で平成 31 年度の開級式が行われました。

桜満開の温かなこの日、式には 5 名の通級生が参加しました。はじめに、小嶋泉学級長が、多治見市の子が取材を受けた新聞記事を示しながら、挑戦することの尊さを語りました。教育委員会の挨拶に続き、通級生が一人一人、思いを語りました。「中学 3 年なので勉強を頑張りたい」「高校に進学したいので、合格できるように頑張りたい」言葉や話の長さはそれぞれでしたが、共通していたのは、新しい年度の自身の成長にかける強い願いであり、その真摯さに胸を打たれました。

「今日、ここ(さわらび学級)に来て、今ここに座ってくれていることをとても嬉しく思います」通級生に続いて話をした 3 名の指導員、通級生が籍を置くそれぞれの学校の職員と共に、通級生の願いが実現するよう、教育委員会も全力で支援します。

全国学力・学習状況調査



4 月 18 日(木)、全国で一斉に学力・学習状況調査が行われました。この調査は、小 6 の児童と中 3 の生徒を対象に、学力や学習状況の実態を把握して国・県・市等の教育施策に生かすこと、各学校が教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる目的で実施されています。

本年度の調査の特徴は、今まで別に出題されていた知識・技能等を問う問題と、それらを活用する力を問う問題が一体的に出題されたことと、中 3 の英語で「話す力」を問う問題が出題されたことです。

陶都中学校では、正午頃から、パソコン室で「話す力」の調査が行われました。生徒はヘッドセットを装着し、緊張の面持ちでパソコンに向かいます。「あなたの将来の夢は何か。そのために今頑張っていることは何か」難しい質問にもあきらめず、英語で懸命に答える姿に日頃の努力が表れていました。

<4月の行事から>

- 1 日(月) 辞令交付式・転入教職員受入式
- 8 日(月) 始業式・中学校入学式
- 9 日(火) 小学校入学式
- 18 日(木) 全国学力学習状況調査
- 19 日(金) 多治見市教育研究会総会
- 24 日(水) 転入管理職研修会

<5月の行事から>

- 10 日(金) 青少年まちづくり市民会議理事会
- 18 日(土) 多治見市 P T A 連合会定期大会
新役員紹介。活動計画報告。講演会
- 25 日(土) わがまち多治見大好き講座①
「虎溪山永保寺を学ぶ」(80 名)